

詩のポイント

詩の分類について

○詩の文体

口語詩

文語詩

口語詩

口語体（普段使っている言葉）で書かれている。

文語詩

文語体（普段使っていない言葉。古典的な言葉遣い）で書かれている。

○詩の形式

定型詩

自由詩

定型詩

音数に一定の決まりがある詩。

自由詩

音数にとらわれない, 自由な形式の詩。

では、この詩は

口語詩

文語詩

どちら？

風の五線譜 高階杞一

風に葉っぱがゆれている

大きな葉っぱ

小さな葉っぱ

ぎざぎざの葉っぱ

まるい葉っぱ

黒い葉っぱ

黄色い葉っぱ

ひとつひとつが

風にゆれ

みんな

ちがった音を出している

みんな

きれいな曲を奏でている

答え

口語詩

では、

定型詩

自由詩

どちら？

風の五線譜 高階杞一

風に葉っぱがゆれている

大きな葉っぱ

小さな葉っぱ

ぎざぎざの葉っぱ

まるい葉っぱ

黒い葉っぱ

黄色い葉っぱ

ひとつひとつが

風にゆれ

みんな

ちがった音を出している

みんな

きれいな曲を奏でている

答え

自由詩

つまり、「風の五線譜」は、

口語詩

+

自由詩

= 口語自由詩

である。

では、この詩は

口語詩

文語詩

どちら？

初恋
島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

答え

文語詩

では、

定型詩

自由詩

どちら？

初恋

島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

七音・五音の
繰り返し
(音数に一定の
決まりがある)

七音
五音
まだあげ初めし 前髪の

七音
五音
林檎のもとに見えしとき
前に

七音
五音
さしたる 花櫛の

七音
五音
花ある君と 思ひけり

だから答えは…

定型詩

つまり、「初恋」は、

文語詩

+

定型詩

= 文語定型詩

である。